志太榛原全地域対象の三次救急選定基準

2024.10～ ver 5

1. 心肺停止症例（内因性・外因性）　特に
   ①目撃あり、発症前 ADL 自立、若年者（75 歳以下を目安）を満たす症例や、
   ②初期波形 VT・VF　または　市民による除細動実施例　　は三次選定。
2. 医師により三次搬送が必要と判断されたもの（転院・転送など）
3. 救急隊が以下（**4**～**8**）を「参考」にしつつ、三次搬送が必要と判断したもの。
4. 生理学的異常きたす場合（ 1～ 4 のいずれか以上が満たされるもの ）

1) 気道の異常

- 気道閉塞：窒息や気管異物など

2) 呼吸の異常（以下の項目を満たすもの）

・高濃度酸素投与下でも酸素飽和度＜90%
　　かつ　呼吸回数＞30 回/分または＜10 回/分

3) 循環の異常（以下の項目のいずれかを満たすもの）

- 橈骨動脈が触知できない。冷や汗を認めるなど、ショックを疑う場合
- 脈拍数＜40 回/分または脈拍数＞120 回/分
　　かつ　収縮期血圧＜90mmHg
- モニター上、心室頻拍（VT）を認めるもの
- 心原性ショックが疑われるもの
- 急性心筋梗塞を疑う場合
　（虚血性心疾患を疑う症状（胸痛・冷や汗・呼吸苦など）が先行または持続しており、
　モニター上 ST 変化を認める場合）

4) 意識・神経系の異常（以下の項目のいずれかを満たすもの）

- JCS Ⅱ-30 以上が持続しているもの
- 全身の痙攣重積状態が継続しているもの

・ 収縮期血圧＞180mmHg 持続　かつ

瞳孔不同　もしくは　持続する頭痛　もしくは　JCS Ⅱ-10 以上

・ LVO スケール

最終健常から 24 時間以内発症の脳卒中のうち、以下の①~③の項目「2 個以上」を呈するもの

①上肢麻痺：どちらかの手が 10 秒以内に下垂する

②共同偏視：左右どちらか一方を見ている

③疎通困難：JCS Ⅱ-10 以上　または　物品呼称ができない

（時計やボールペンを見せ、名前を聞いても正答できない）

5. 環境異常（環境により身体に異常が生じたもの）

1) 低体温：体温が 34℃以下の場合

2) 高体温：体温が 40℃以上かつ「3. 生理学的異常」がある場合

または、重症の熱中症と考えられる場合

3) 電撃症

6. 中毒

1) 医薬品・農薬・化学薬品を飲んだ場合

2) 農薬・化学薬品を体表に浴びた場合

3) 有毒ガス（例：一酸化炭素　その他）を吸引した可能性がある場合

7. 外傷　（下記　1）～3）を参考に、総じて重症と判断する場合）

1） 生理学的異常（下記のいずれかに該当する場合）

・ 声が出ない場合 （口腔内を必ず観察する）

・ SpO2＜90%　または　呼吸回数＞30 回/分または＜10 回/分

・ 血圧＜90mmHg　または　血圧＞200mmHg

・ 脈拍数＜40 回/分　または　脈拍数＞120 回/分

・ JCS Ⅲ-100 以上　または　瞳孔不同　または　進行性意識障害

2） 解剖学的評価（下記のいずれかに該当する場合）

・ 頭部：10cm 以上の割創、1cm 以上の陥没、開放性頭蓋骨骨折

- 顔面：上下顎部の明らかな陥没
- 頸部：気管偏位、頸部の著明な腫脹
- 胸部：胸郭挙上不十分、胸郭動揺・フレイルチェスト、胸郭運動なし、胸部開放創
- 腹部：腹部膨隆、腹部の強度の圧痛、腹部開放創、臓器脱出
- 骨盤：あきらかな骨盤動揺
- 四肢：四肢麻痺もしくは対麻痺（しびれのみは二次対応）、
  手関節もしくは足関節より近位の肢切断（手指、足趾切断は二次対応）
  上腕骨もしくは大腿骨の開放骨折
  デグロービング損傷（表皮のみの剥脱創は二次対応）

その他：頸部～腹部皮下気腫、刺創、杙創、銃創、穿通性外傷
圧迫止血困難な頭頸部～体幹の活動性出血

3） 受傷機転（下記を参考に高エネルギー受傷機転と考えられるもの）

- 頭頸部から体幹の狭圧
- 4 時間以上の四肢圧挫
- 車両高度損傷（正面衝突など）
- 同乗者死亡、車両から放出
- 救出時間 20 分以上
- ヒト 対 車両の交通事故 ： 5m 以上跳ね飛ばす もしくは ノーブレーキ
- バイク 対 車両の交通事故：
  バイクと車両が 10m 以上離れている、もしくは　バイクとバイク運転手が離れている
- 高所墜落（6m 以上）（ ※75 歳以上の高齢者、小児、妊婦は 3m 以上）
- 転落・滑落外傷（10m 以上）
- 高速道路事案（バイパス等も考慮）

8. 熱傷（9 の法則）

1) Ⅱ度熱傷 30%以上またはⅢ度熱傷 10%以上
2) 15%以上の熱傷を合併する外傷（爆傷など）
3) 顔面熱傷、気道熱傷が疑われる場合